

桐生市ボラ協と仏教会 南三陸町・歌津地区へ



歌津地区復興支援の会の小野寺寛さんを中央にはさみ、右から松井隆さん、青木講一さん、黒澤清市さん、坪井良廣さん(宮城県南三陸町で)

コミュニティー再生を支援

現地訪問し浄財、法要も

桐生市ボランティア協議会(ボラ協)、宮地由高会長)と桐生仏教会(堀秀航会長)のメンバー7人が10、11の両日、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町を訪れ、地元復興支援団体と交流を図った。土地のかさ上げや

道路・鉄道など、現地ではインフラ整備が着実に進む。一方で、表面化しているのが、生活再建の過程で後回し

にされた「近所づきあい」の再生。訪問したメンバーは「ハードではなく、ソフトの復興に役立てて」と、震災以来交流を続ける南三陸町歌津地区復興支援の会「一燈」に寄付金を手渡した。

ボラ協と仏教会では毎年3月11日に合わせ、南三陸町の志津川、歌津両地区を訪れ、現地の寺などで法要を営むとともに、歌津地区の住民との交流を重ねている。訪問メンバーの一人でボラ協の松井隆さんは「震災直後からこれまで8年

間、毎年現地を訪れては、復興の足取りを見つめてきた」と振り返る。今年2月、南三陸町歌津地区復興支援の会「一燈」の代表を務める小野寺寛さんから、各団体に寄付の依頼文が届いた。仮設から高台の団地・住宅へ、ハードの復興が進む一方、コミュニティーの再生は遅れている。文面では、ソフトの整備に必要な資金の提供を訴えていた。

4団体では呼びかけに応じ、11万円余りを集めると、10、11日の南三陸町訪問の際に、小野寺さんに直接浄財を手渡した。

「ソフトの復興は行政では難しい。一燈のような、住民自身の手でコミュニティーの再生に取り組む組織がこ

れからは欠かせない」と、松井さんは話す。11日には雨の中、津龍院、西光寺、歌津慰霊碑などを訪れ、8年目の法要も執り行った。

4団体では今後も、南三陸町歌津地区の取り組みの支援を続ける予定だ。

外国人過去最多5万6597人
県人口18年12月末

県は2018年12月末現在で、県内の外国人住民数が過去最多の5万6597人に上ったことを発表した。桐生・みどりの両市の外国人住民数は前年同月比123人増の2666人だった。

桐生市の外国人住民数は同53人増の1902人で、みどり市は同70人増の764人。県内の外国人住民は

親の体
法制化
児童虐待
強化に向
日の閣議
法や児童
どの改正
た。「し
悲惨な虐
ぐ中、親
への体罰
児童相談
体制強化
だ。施行
2020
政府・与
重要法案
早期成立



レオパ
創業者
賃貸ア
レオパレ
建築基準
のある施